

観光地振興論 I

科目ナンバー 8C207
専門 基礎系 選必 2
単位

五艘 みどり

1. 授業の概要(ねらい)

観光地の持続的なあり方について、各地の事例をもとに理解を深めます。事例では、各地域の背景・取組み・効果・課題について説明をしますが、同時に直面する地域の問題を提示しますので、解決にはどのようにしたら良いか考えてもらい、思考力を鍛えてください。

前期では巡礼観光地、都市観光地、産業観光地、世界遺産を扱い、後期では温泉地、山岳・高原リゾート(スキーリゾート含む)、海浜リゾート、歴史的街並み観光地、農村観光地を扱います。事例は国内中心ですが、先進事例となり得る海外事例も交えて講義を行います。

※この授業では学位授与の方針(ディプロマポリシー)DP2~3に関する知識、技法、態度を習得します。

※この授業は基本的に講義形式ですが、履修者が20名以下の場合には第10回においてグループワークを実施します。

本科目は、実務経験のある教員による授業です。担当教員は企業においてリーチおよび戦略立案業務に携わっており、授業では、企業における実例や実体験、現場での課題などを題材とした議論等を行います。

2. 授業の到達目標

授業は、①日本の観光地の変遷と現状、求められる観光地の方向性を理解する、②各地の具体的な事例について学ぶ、③日本の多くの観光地振興に見られる問題や課題、新たな兆しについて理解する、という順序で進めて行き、学生はこの内容について理解することが可能になります。

事例には取組みがうまくいっていない地域も含まれます。こうした地域の軌道修正をどうするかを考えることも重要です。また事例の一部には、地域間のネットワーク化など新しい取組みもあります。本授業では、皆さんの質問や意見を歓迎します。

3. 成績評価の方法および基準

・定期試験:70%

・中間レポート:30%

※授業の内容を深めるような質問をしてくれた学生には加点します。

※試験のフィードバックは最終授業にて行います。

4. 教科書・参考文献

教科書

テキストは使用しません。教材は授業で掲示します。

5. 準備学修の内容

事前学習は、適宜LMSに掲載される資料を読んで理解を深めてください(所要時間は約30分です。)

事後学習は、授業ごとに指示します。

6. その他履修上の注意事項

7. 授業内容

- 【第1回】 日本の観光地をめぐる背景
- 【第2回】 観光地計画と観光マーケティング
- 【第3回】 巡礼観光地(1):伊勢と熊野の事例から
- 【第4回】 巡礼観光地(2):日光と富士山の事例から
- 【第5回】 都市観光地(1):東京の水辺観光
- 【第6回】 都市観光地(2):海外の先進事例(韓国・ソウルの清溪川)
- 【第7回】 世界自然遺産(1):知床国立公園の事例から
- 【第8回】 世界文化遺産(2):白川郷の事例から
- 【第9回】 世界自然遺産(3):海外の先進事例(オーストラリア・フレーザー島)
- 【第10回】 世界文化遺産(4):海外の先進事例(イタリア・オルチャ渓谷)
- 【第11回】 産業観光地(1):足尾銅山の事例から
- 【第12回】 産業観光地(2):海外の先進事例(イギリス・リバプール)
- 【第13回】 地域間ネットワーク:最も美しい村連合、ボランティアホリデー
今後の観光地振興の展望
- 【第14回】 期末試験
- 【第15回】 期末試験の振り返り